

南あわじ市 平成 22 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

I 基本事項

		整理番号	1298
事業名	わんぱく塾	予算科目	会計 一般会計・1 款 教育費・10款 項 社会教育費・5項 目 青少年教育費・9目
担当部課名	教育部 生涯学習文化振興課		
電話	0799 - 37 - 3020		
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	人づくり_知恵あふれ_郷土愛が満ちるまちづくり_	
	まちづくりの目標	一人ひとりが明日を拓くリーダー【教育】	
	施策目標	子ども達や市民が、南あわじ市の未来を切り拓くための、多様な能力を身につける機会を提供する	
該当する事業について「 」を選択		<input checked="" type="checkbox"/> 施策的事業	<input type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 負担金補助

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	対象(誰を・どのような状況の人に)	全児童(小中学校)		対象人数(人)	2,900
	目的	<p>意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入)</p> <p>人は一人で生きていけるものではなく、他人との繋がりを大切に、自分とは違うものを相手から見つけることにより、協調性や創造性、道徳観を徐々に身につけて行く。市内全校生徒に呼びかけることにより、新しい交流が生まれ子ども達の交流が広がる。未来の南あわじ市を担う子どもたちが、人の繋がりと郷土の自然や文化を体験することにより、心豊かな人づくり、まちづくりが出来るものとする。青少年教育の最重要施策と考えている。</p>			
	実施内容	<p>(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか)</p> <p>今年度は、子ども映画祭の作品作り講座、勾玉づくり、考古学博物館見学会、1/2成人式典参加と未来の夢作品をタイムカプセルに！、子ども農業体験(リトルファーマーズ)、と昨年度からはかなりメニューを縮小して取り組んでいる。</p>			
	背景	<p>(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など)</p> <p>旧西淡のあそび塾を基本に、旧三原のふれあい100円塾や旧南淡のうずしお交遊塾の良さを取り入れた全児童対象に行う体験学習。関東や近畿圏、近くは淡路市からの視察や情報の提供依頼もある、斬新的な企画であり、保護者の喜びの声もある。子ども達が群れる環境が不足し、母親の社会進出が進む現代社会において、仲間同士と異年齢交流は、非行防止と社会的感覚の育成に繋がっていると考える。</p>			
	事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市直営	<input type="checkbox"/> 民間・その他		
事業期間	<input type="checkbox"/> 平成	年度	~	平成	年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)				
	<input type="checkbox"/> 旧緑町	<input type="checkbox"/> 旧西淡町	<input type="checkbox"/> 旧三原町	<input type="checkbox"/> 旧南淡町	<input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input checked="" type="checkbox"/> 新市から
市内全児童対象に社会体験活動の場の提供					

Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

事業に対する 目標の設定	指標名	参加人数					指標単位
							人
	指標説明 (指標算出 方法等)						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標値	100	100	100	100	100	
	実績値	90	90	90	90	90	
	達成度 (%)	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	
目標値設定 の考え方	児童数減少は否めないなので、参加者人数が減少傾向となる。						
資源配分 (インプット)		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	直接事業費 (千円)	1,000	1,000	1,400	2,500	500	
	わんぱく塾補助金	1,000	1,000	1,400	2,500	500	
	財 源 (千円)						
	国						
	県						
	起債						
	その他			30	30		
	一般財源[A]	1,000	1,000	1,370	2,470	500	
	人件費(正規職員)[B] (千円)	13,545	12,555	12,690	2,740	2,740	
	平均人件費(1日当り)	30.1	27.9	28.2	27.4	27.4	
	事業量1(事業に要した日数)	150	150	150	50	50	
	事業量2(事業に要した人数)	3	3	3	2	2	
年間経費([A]+[B])	14,545	13,555	14,060	5,210	3,240		
'目的'対象人数1人当り経費 (円)	5,015.5	4,674.1	4,848.3	1,796.6	1,117.2		
経費に関する 補足説明	<p>補助金以外に参加費を集める。参加費は材料等相当額の負担である。補助金は、その他の経費を補う部分と講師謝礼等が大部分である。</p> <p>平成21年度は子ども映画祭(550千円)、平成22年度は子ども映画祭(2,000千円)が含まれる。平成23年度は別に予算化。</p> <p>平成21年度まで決算額。平成22年度以降当初予算額。</p>						

IV Check (事業の自己評価・一次評価)

		単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
達成度	目標達成度	%	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	
	(事業目標の達成度分析、問題点・課題などを記入。) 全児童(小中学生)2,900名対象に、全児童選択機『わんぱく塾』として売り出し(募集し)、行政側の目線ではなく、子どもたちと同じ目線に立った事業案内を行なった。延べ1,700名の参加があった。南あわじ市ホームページでの事業内容の配信や募集チラシ作成時のアイデア、さらに年間を通した多彩な事業内容が評価されたと考える。事業の継続は、子ども達の要求度から考えて必要不可欠である。						自己評価 (5点評価)	
								4
有効性	(住民満足度の分析、問題点・課題などを記入。) 集団で一定期間に事業を行う事により、多くの児童が参加できる。また継続性の事業であり、毎年参加する児童がほとんどである。合併後、広く浸透してきた事業であり、今後も継続は必要であると考え。子ども達の長期休暇、特に夏休みの過ごし方は、近年大幅に変わってきた。夏休みを中心に事業を展開したこともあり、子ども達の選択による自発的な参加が多くなった。今後も広く周知し、継続性・連続性を持ち事業を展開する。						自己評価 (5点評価)	
							4	
効率性	事業単価	円	5,015.5	4,674.1	4,848.3	1,796.6	1,117.2	
	(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 募集については学校を通じて全生徒に配付しており、確実に周知が出来ている。会費等を徴収し運営していることから補助金の額は妥当であると考え。費用対効果は目に見えて表れるものではないが、将来、南あわじ市を担う子ども達の心の中には無限大の効果がある。						自己評価 (5点評価)	
								4
必要性	公共性の高低	<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低				
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 市内全児童対象に募集する事業で、参加は個人の選択であり、子ども達の自主性も大きな人間形成の一つである。集団生活をする中で他人との相違点を見出し、協調性と道徳観を養うことが非行防止への第一歩であると考え。体験学習と文化体験は創造性と自ら考え行動する自主を促し、青少年育成に大きな役割を担うと確信する。また、今年度、規模を縮小したことにより、特に勾玉づくりに集中し、ほとんどの児童が参加出来ない状況になっている。						自己評価 (5点評価)	
								5
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 17年の合併以来、5年目となり、兄弟 姉妹間、また保護者間、地域で広く浸透していることは確かである。この事業は少子化により児童数が減少して行く今こそ、学校区を越えた交流、青少年への健全育成教育が必要であり、家庭の諸事情も複雑化している一面にも考慮しながら、この事業を進めている。ただ、事業運営において、食問題(アレルギー)やひきこもり、引いては発達生涯児等の対応など対応すべき課題も多岐に渡ってきた。よって、指導や安全管理面での人材の確保や事業内容などに制約を受けてきている中で、関係職員の人的削減も課題となってきた。						<p>評価グラフ</p>	

V Action&Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成23年度にできる改善・改革	平成24年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し
	<p>今年度は、種類を縮小して実施しているの で、問い合わせが多くなっている。来年度の映画祭本選大会に向け、作品づくりの親子講座を 随時開催する。</p>	<p>同左。</p>
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果 (現状維持以外の場合)	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
	コスト面	コスト面
(現状維持の場合も記入)	<p>仮に事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>平成22年度は勾玉づくりに申込みが集中し、全員の子どもたちが参加できないこともあった。このような事態の中で、中止等は、市内の児童の体験学習の機会を著しく損ねてしまうこととなる。</p>	